

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	東簡易マザーズホーム			
○保護者評価実施期間	令和6年12月2日 ～ 令和6年12月26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日 ～ 令和7年2月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月4日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別療育やリハビリでは一対一で個々の発達状況に合わせた指導を受けることができる ・保育士、看護師、理学療法士、作業療法士等多職種で子どもを支援している	・個別療育やリハビリで指導した内容は職員間で情報共有し、集団療育内でも活かせるように意識している ・家庭では行えない経験が積めるようにしている ・各専門職の視点からこどもに対して関わっており、日々の振り返りやカンファレンス等で密に情報交換している ・専門職の視点やアドバイスを活かして環境設定を行っている	・個別療育やリハビリ以外の時間の運動あそびや自主活動等の集団場面でも個々に関われるように心がけている ・専門職間での情報交換、勉強会等を行い専門的支援の質の向上に努めている
2	・母子通園のため保護者との情報共有が取りやすい環境がある ・母子通園なので保護者同士の交流も図りやすい ・着脱、手洗いなどの生活面での課題をその場で保護者に伝え、関わるができる	・登園時には保護者からの児の様子や変化、受診報告などの情報を共有している ・季節行事や懇親会、家族参加日等で保護者同士で交流できる機会を作っている	・行事や定期健診については多くの方が参加できるように日程や環境を調整していく
3	・医療的ケア児の通園、分離にも対応している ・定期検診や心理発達相談、ことばの相談を受けることができる	・看護師常勤のため医療的ケア児が安心して登園できる ・医療的ケア児の分離を実施するにあたり、安全かつ適切なケアを提供できるよう、事前に診療情報提供書と医師の指示書の提出いただき、それを元に実施手順書、緊急時対応表を個別に作成している	・安全かつ適切なケアを維持するため、ケア毎に指示書を細分化し、より個別性に合わせた指示書となるよう改訂を行っている

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・併行利用している保育園や他施設との情報共有や相互理解が不十分である	・必要に応じて併用施設と連携をとり、またこども発達相談センター経由で保育園巡回も行っているが、相互理解を深める取り組みはあまりない	・相互理解という点についてはマザーズホームの情報を発信していく
2	・保育園やこども園との交流や地域のこどもと交流する機会がない ・地域住民との交流や行事などが行えておらず、地域に開かれた運営はできていない	・発達特性や既往歴のある児も多く、地域交流や地域の方を呼んでの行事は行うことが安全面（感染リスク含め）を考慮すると難しい	・遠足、バス散歩等で児童ホームや他施設を利用したりするなかで交流を図ったり、今行っている玩具の図書館を地域のこどもも利用出来るように検討したい
3	・母子分離利用開始までの手続きに時間がかかってしまう、また利用時間が短い ・兄弟児がいる家庭にとって利用がしにくい面がある	・医療的ケア児を受け入れる際に安全面の考慮といった環境的要因や書類作成、手技の確認で実施までに時間を要してしまう	・利用開始までの時間を要する理由を安全に安心して実施するためであることを説明し理解を得る、利用時間については検討する ・兄弟児の預かり施設の案内をしている